

シリアの節水灌漑普及ツール <その3>

前号の流量測定キットに引き続き、今回は灌水量の目安を伝える「灌漑早見表」について紹介したい。

作物にとって最適な灌水を行うためには、農家は自分の栽培する作物がどの位の水を必要とするのか、適切な灌水量を知らなければならない。しかし、プロジェクト活動で訪れる農家や普及員たちからは「どのくらい灌水をすれば良いのか分からない」といった声が多く聞かれた。ほとんどの農家は自分の経験や周辺農家の口コミを参考に灌水量を決めているようであった。

節水灌漑が国の重要な課題となっているシリアでは各県に灌漑に特化した灌漑試験場が設けられ、作物や灌漑方法ごとに作物要水量を求めるための試験が盛んに行われている。また限定的ではあるが、農業試験場では普及員や農家を試験場に招待し研究成果を紹介するといった活動も行っている。しかし、ほとんどの農家は自分がどれだけ灌水を行えばよいのか知らないという。プロジェクトでは、この原因として、研究者たちの作成した資料や説明が研究者向けの難解なものであるため、農家へ正確に情報が伝わらないためではないかと考えた。そこで、プロジェクトでは作物要水量に基づいた灌水量を農家へ分かりやすく伝えるための手段として、灌漑早見表を開発した。

灌漑早見表は星座早見盤のように2枚の円盤を重ねた構造になっている。表面の円盤をスライドさせ円盤の下部を作物の定植月(または播種月)に、上部の窓を任意の月にそれぞれ合わせることで、1回あたりの推奨灌水時間(毎日灌水、1日おきに灌水、4日に1回灌水の3ケース)が表示される。裏面には対象の地域(県)、作物、灌漑方法といった適用条件が記されている。推奨灌水時間は灌漑試験場のデータを基に、ペンマン・モンテイス法による作物要水量と、灌漑方法に基づく灌漑強度により推定を行った。

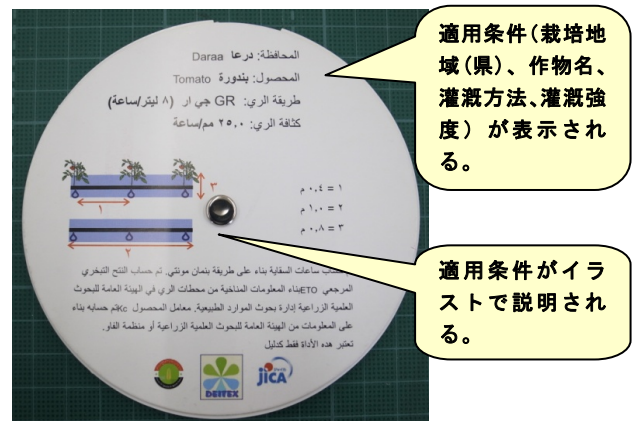
この灌漑早見表のテーマは、いかにシンプルに、かつ農家の興味を引く物を作るか、という事であった。単にA4用紙に描いた表では、農家は大きく中身を見ることもなく、そのまま捨ててしまうかもしれない。何か目新しいものを、ということで星座早見盤を参考に丸型&スライド方式とした。また、誰が見ても読み間違えることが無いよう、記載する情報は極力少なく、という事で、1回あたりの灌水時間のみを表示することにした。これは、シリアの農家に灌水量を訪ねると「10日おきに10時間」というような時間を単位に答えることから、彼らに使いやすいよう「量」ではなく「時間」での表記に絞ることとした。灌漑早見表の配布は普及員による普及活動の一環として行い、普及員は農家へ灌漑早見表の使い方を説明するとともに、灌水量、灌水時間についても説明を行い配布した。



後日、配布した農家や担当した普及員に感想を聞いてみると、灌水時間のみが表示されるシンプルな構造に対して好意的な意見が多く聞かれた。さらに、いくつかの農家は自発的に灌漑早見表の灌水法と自分の灌水法とを比較した栽培を行い、灌漑早見表により収量を落とさずに節水が達成できたことを確認したともいう。灌漑早見表に使用したデータは元々シリアの試験場で収集したデータである。灌漑早見表は、現存の情報をいかに農家へ届けるかという「伝え方」の重要性について改めて学べた思い出深い普及ツールである。



おもて面



うら面